

テーマ:マルシェカーでつなぐ農業の“wa”

氏名:佐藤 佑美

1. 受講動機

※ 受講しようと思ったきっかけ

「農業ってイイ」「農業者ってカッコいい」「女性農業者にはまだまだできる事がある」と考えながら言語化できていない事がたくさんあると思ったので、講師の方の地域資源発見や発信のプロセスを学ぶことで新たな視点を得て、現在活動している女性農業者コミュニティの活動に生かしたいと思ったから。

2. 研究する地域資源

※ どの地域資源を研究するか(理由も含めて)

女性農業者

理由

地域の女性農業者がもっと生き生きと農業と関われば、地域農業の魅力発信や経営力向上、新規就農者の増加等に良い影響を与えられると考えます。

3. どのように価値を与えるか

女性農業者コミュニティの活動にキッチンカーのような移動販売型ケートラマルシェ＝「マルシェカー」という出張コンテンツをつくる事で多くの人に農の豊かさを知ってもらえるツールとして価値を与えられると考えました。

実際に共有するのは農産物ディスプレイの棚と「マルシェカー」という概念の看板だけで、農業者の所有しているケートラを利用し、棚も実働部隊もルー方式で、乗せる物や出張場所や出張イベントは女性農業者のもつ「多様な農業の良さ」次第でカスタマイズして市内を転々と出張し農業の輪を広げていきます。

「農業の良さ」をマルシェカーの中にさらに農の豊かさを実感するパッケージとして乗せることで地場野菜に興味のない人へのフックにします。(具体的には女性農業者がハンドメイドイベントや幼稚園前にキッチンカーのように出張し、野菜と一緒にWSや絵本読み聞かせ等で農業の豊かさを伝える等の活動を外の人からも何が出来るのか分かったり声のかかる状態にします)

4. 長岡のビジョン

マルシェカーで女性農業者のもつ多様な「農業の良さ」を沢山のフックに変え
市民と繋がることによって農の豊かさを感じるまち長岡になったらいいなと考えます。

5. 参考文献

・長岡市総合計画(平成28年度～平成37年度)・農林水産省農業白書・長岡市内におけるSDGsアンケート調査 長岡技術科学大学・農水省 女性の農業への関わり方に関するアンケート調査結果について ～平成24年度農林水産省委託調査結果から～・研究員レポート「女性農業者の新しい取り組みについて」～人的ネットワークがもたらすイノベーション～ (一般財団法人日本経済研究所調査局調査部副主任研究員 永島 千恵)

令和3年度まちなか大学院「地域資源研究コース」成果発表

テーマ：マルシェカーでつなぐ農業の”wa

氏名：佐藤 佑美

はじめに

○なぜ受講したか

女性農業者がもっと生き生きと農業に関われば、地域農業の魅力発信や経営力向上、新規就農者の増加等良い影響を与えていると考えている。「女性農業者にはまだまだできる事がある」と考えながらも言語化できていない事がたくさんあると思い、講師の方の地域資源発見のプロセスや価値を持たせるプロセスを学ぶことで新たな視点を女性農業者のコミュニティの活動に活かしたいと思い受講した。

○どんな問題にとりくんだか

- ・女性農業者という地域資源を生かして農ある豊かさを感じる街長岡にしたい
- ・女性農業者を取り巻く環境に挑戦する場や多様な人と関わる場が必要

というビジョンを実現する為に、資源としての女性農業者の価値を生かし継続して地域に農の豊かさを感じられる街にしていくためにはどんな方法があるのか検討した。

どのように価値を与えるか

キッチンカーのような移動販売型ケートラマルシェ（以下「マルシェカー」とする）という出張コンテンツをつくる事で多くの人に農の豊かさを知ってもらえるツールとして価値を与えられるのではないかと考えた。

1つ目の理由は、女性農業者自体の存在の認知をする活動が必要だからである。農産物に関わるイベントだけ開催したり参加しても、既に知ってくれている人や地場野菜に興味ある人に接触が限られてしまうという現状がある。より多くの人に認知してもらえるよう、人のいる所に参加することができる移動販売が良いと考えた。

2つ目の理由は長岡市は市民活動が盛んであるので、軽トラック1個分ならば他の市民活動に混ぜてもらいやすいコンテンツサイズだからである。

3つ目の理由は、女性農業者の持つ多様な「農業の良さ」は広く市民に農の豊かさを感じてもらえる事に生かせると思ったからである。女性農業者の職業選択の理由、「農業の好きな所は？」の問いの答えが多様化してきている。能動的な職業選択が増えたことも理由であるし、長岡では特に大規模稲作農業が盛んなので男性が機械作業をする分女性は補助作業（手作業）に回りがちな分、その様々な手作業や補助作業がいろんな視点から農業を見る事に繋がっていると考える。十人十色に言う「農業の良さ」をマルシェカーの中にさらに農の豊かさを実感する物や体験として乗せることで地場野菜に興味のない人へのフックにした

いと考えた。

以上から、女性農業者の認知を得て、栽培作物に縛られない消費者の方との出会い方を作り、多様な農業の良さを持っている事を生かすべく『マルシェカー』という出張コンテンツを作ろうと考えた。実際に共有するのは農産物ディスプレイの棚と「マルシェカー」という概念だけで、農業者ならば1台は所有しているケートラを利用し、棚も実働部隊もリレー方式で、乗せる物や出張場所や出張イベントは女性農業者のもつ「多様な農業の良さ」次第でカスタマイズして市内を転々と出張していきたいと考える。

○多様な「農業の良さ」とは

多様な「農業の良さ」にはこのような例がある。

- ・自分好みのドライフラワーリースを種から育て、作れる
- ・土の匂いが好き、野菜の花が好き
- ・栽培していると生活や生き方まで考えさせられる
- ・大型機械に乗ると興奮する！

これを市民の方と共有できる形に変換すると、

- ・種からこだわるドライフラワーWSの開催
- ・農業に欠かせない虫を身近にしたい→「田んぼの仲間」の出張展示会
- ・農業や野菜の絵本の読み聞かせ
- ・大切に育てた野菜の根っこのひげから葉っぱまで味わい尽くすレシピの提供

などができそうである。これによって、市民の人にも共感できる所から農業に興味を持ってもらえるという価値を与えられるようになると考える。

結果

マルシェカーで広がる農業の”wa“略してマルシェカーPJを行ったら、地域にとっては直売所や農産物販売イベント以外にも地場野菜や農業に触れる機会が長岡にでき、広く市民に農作物以外で農ある長岡を楽しんでもらえる導入部分になると考える。

女性農業者にとっては、挑戦の場や多様な人と繋がっていく場になり、その結果多様性のある女性農業者が活躍する地域になったら農業従事者の増加に繋がり、農業界の活性化に繋がると考える。

長岡のビジョン

マルシェカーで女性農業者のもつ多様な「農業の良さ」を沢山のフックに変え市民と繋がることによって、農の豊かさを感じるまち長岡にしたい。

一方女性農業者にとっては、自分らしく農業に関わる一步になるのが目標である。そして、自分らしく輝く農業者の背中でこの地域の農業が魅力的になったらいいなと思う。

資料

- ・長岡市総合計画（平成28年度～平成37年度）
- ・農林水産省農業白書
- ・長岡市内におけるSDGsアンケート調査 長岡技術科学大学
- ・農水省 女性の農業への関わり方に関するアンケート調査結果について
～平成24年度農林水産省委託調査結果から～
- ・研究員レポート「女性農業者の新しい取り組みについて」～人的ネットワークがもたらすイノベーション～（一般財団法人日本経済研究所調査局調査部副主任研究員 永島 千恵）

令和3年度 まちなか大学院「地域資源研究コース」

マルシェカーでつなぐ農業の”wa“

佐藤 佑美

地域資源「女性農業者」

女性農業者コミュニティの活動コンテンツとして

出張ケートラマルシェ = 【マルシェカー】



どのように価値を与えるか

①女性農業者の認知度UP

- ・ハントメイドイベント出店や幼稚園前、公園前など
農産物イベント以外のところへ参加

②多様な「農業の良さ」を乗せる

マルシェカー

- ・ 移動販売ケートラマルシェ
 - ・ 乗る人も乗せる物も出張場所や参加イベントも女性農業者それぞれの「農業の良さ」が生かせるようにカスタマイズ可能な形に
- ↓
- ・ 実際に共有するのはディスプレイ棚と「マルシェカー」という看板のみ



「農業の良さ」

- ・ ドライフラワーを種から育てられる
- ・ 畑は子供の遊び場学び場
- ・ 土のにおいが好き
- ・ 野菜の花が可愛いから好き
- ・ 天気次第で仕事を決められるのが良い所
- ・ 大型機械に乗ると興奮する！

女性農業者の思う「農業の良さ」を形に

- ・ 地場産ドライフラワーWS
- ・ 田んぼの仲間出張展示会
- ・ 農業や野菜の絵本読み聞かせ
- ・ 根っこのひげから葉っぱまで味わい尽くすレシピ

⇒ 共感できる所から農業に興味を持ってもらう



長岡のビジョン

女性農業者の持つ多様な「農業の良さ」



マルシェカーで広く認知



市民の人の興味のあるところから農業の世界を知ってもらう



農の豊かさを感じるまち長岡へ^④

(女性農業者にとっても挑戦の場、外へ繋がっていく場になる)

参考

- ・長岡市総合計画（平成28年度～平成37年度）
- ・農林水産省農業白書
- ・長岡市内におけるSDGsアンケート調査 長岡技術科学大学
- ・農水省 女性の農業への関わり方に関するアンケート調査結果について

～平成24年度農林水産省委託調査結果から～

- ・研究員レポート「女性農業者の新しい取り組みについて」～人的ネットワークがもたらすイノベーション～（一般財団法人日本経済研究所調査局調査部副主任研究員 永島 千恵）